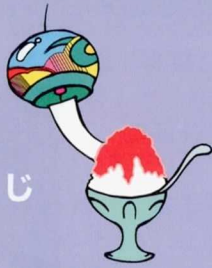


国立国語研究所学術情報リポジトリ

国語研の窓 第4号 (2000年7月1日発行)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00001957

季刊 国立国語研究所
広報誌



もくじ

連載
暮らしに生きることば④ P.1

連載 国立国語研究所の紹介④
語彙調査の成果から P.2

ことばQ&A P.3

終了報告
ことばフォーラム P.3

研究プロジェクト紹介
日本語学習者による日本語作文と
母語訳との対訳データベース P.4
~P.5

調査紹介
「白書、広報紙における
外来語の実態について」 P.6
~P.7

研究成果の紹介
新プロ「日本語」
日本語観国際センサスの実施 P.8
~P.9

「ことばフォーラム」のご案内 P.10

所内見学 P.10

国語研の窓

平成12年7月1日 第4号

発行 国立国語研究所

The National Language Research Institute

編集 国立国語研究所企画広報委員会

〒115-8620 東京都北区西が丘3-9-14

電話 03-3900-3111 FAX 03-3906-3530

URL <http://www.kokken.go.jp/>



国立国語研究所正門

連載第4回 暮らしに生きることば

漢字を当てることで、ことばの形や意味に思わぬ変化が起こることがあります。例えば、「堪能（たんのう）」ということば。①「外国語に堪能だ」、②「芝居を堪能する」。①の何かに優れているという意味と、②の何かに満足するという意味が、同じ「堪能」ということばで表されているのは、考えてみれば不思議です。これは、もとは別々のことばだったものが、同じ漢字で書かれるようになったために、一つのことばであるかのようになったものです。

①は、古くに中国から日本語に取り入れられたもので「カンノウ」と読まれていました。②は、もとは日本語の「足（た）りぬ」で、「ぬ」は完了の助動詞。「満ち足りた状態」という意味でした。「たりぬ」が「たんぬ」の形に、さらに音を変えて「たんの」「たんのう」となりました。「たんのう」という形になってしまうと、語源が「足りぬ」であることは忘れ

られてしまいます。江戸時代から、このことばに漢字が当てられることも多くなり、「湛納」「堪納」などとともに、「堪能」を当てた例も見られるようになります。「堪」には本来「タン」の音はありませんでしたが、「湛」を「タン」と読むことなどから類推して、当てられたもののようなのです。

「たんのう」が「堪能」と書かれるようになったために①の「堪能」も、「たんのう」と読むことが一般的になりました。



連載

国立国語研究所の紹介 ④

語彙調査の成果から



国立国語研究所長 甲斐睦朗

0 はじめに

国立国語研究所が現在の建物で調査研究に取り組みはじめて早くも40年になろうとしています。敷地内の樹木は建物と競うばかりに生長して青々と繁った枝葉を大空に広げています。

さて、国立国語研究所は、創立以来、数多くの報告書を刊行し続けています。その中から今回は語彙調査に関連した報告書を3冊取り上げます。

1 『分類語彙表』

昭和39(1964) 年刊

国語辞典の多くは、五十音順に配列した見出しに意味や例文などを付けるのが一般的ですが、この『分類語彙表』は、ことばを品詞と意味とで分類することを特徴とする語彙資料です。『現代雑誌九十種の用語用字』第一分冊(1962)の使用度数の高い上位12,000語を中心に、阪本一郎氏の『教育基本語彙』に選ばれた22,500語を加えて整理した32,600語を品詞によって大きく4グループに分け、さらにその中を意味によって合計約850の項目に分類しています。この文献は、これまで多くの版を重ね、国語学はもとより、日本語教育、日本語情報処理の分野で活用されています。現在、収録語数を増やした増補改訂版の編集を進めています。



2 『電子計算機による新聞の語彙調査』全4冊

昭和45~48(1970~73) 年刊

この報告書は、全国紙3紙の朝夕刊全紙面1年間分を対象とした標本抽出による語彙調査の結果をまとめたものです。新聞の語彙調査は、国立国語研究所がはじめて電子計算機を使って行った語彙調査です。報告書では、それぞれの語の使用度数、品詞、語種、単位の切り方などによる各種の分類を提示しています。例えば

「短単位」で度数5以上は、13,000語を超えています。「短単位」とは、ことばを数えるための単位の一つです。例えば、「電子計算機」は「電子/計算/機」と分割され、3語と数えられます。本調査における度数30以上の異なり約2,700語は、国語辞典の重要語の選定によく使われてきました。



3 『日本語教育のための基本語彙調査』

昭和59(1984) 年刊

この報告書は、外国人のための日本語教育の基礎資料として作成されたものです。上記1で紹介した『分類語彙表』に収録されている約32,600語のそれぞれについて、専門家22人に「学習すべき一般的・基本的な語彙」かどうかの度合いを3段階で判定してもらい、その結果を分析し、一覧表にまとめました。選定された基本語は6,000語強です。この中には、より基本的な語彙として選ばれた2,000語強を含みます。それぞれの語には、先行する9種類の語彙資料における収録状況が示されています。この報告書は、これまでの報告書の中では『分類語彙表』と並んでよく利用されています。日本語教育に携わる人が必ず活用する参考書の一つです。



これらの文献は、国立国語研究所、国会図書館、主な公立図書館で見ることができます。

国立国語研究所は、これからも、大学の研究室などでは取り組むことができない大規模な基礎研究、また、年月をかけてじっくり取り組まなければならない長期的な調査研究に立ち向かう所存です。



文字を繰り返すときに使う

「ゝ」や「々」

Q 質問 「やゝ」や「人々」と書く場合の「ゝ」「々」などは、何と読む字なのでしょう。また、どのような種類があり、その使い方に決まりはあるのでしょうか。

A 回答 文字ではなく符号で、決まった読み方はありません。普通、まとめて「繰り返し符号」あるいは「踊り字」と呼び、右のように呼び分けることもあります。

符号ごとに使い方が決まっています。仮名の繰り返しには「ゝ」「ゝ」（「こゝろ」「たゞ」「ハゝゝ」など）、漢字の繰り返しには普通「々」が用いられますが（「段々」「正々堂々」など）、「屢ゝ（しばしば）」「愈ゝ（いよいよ）」など、一部の決まった単語には「ゝ」を使うこともあります。以上は、一字の繰り返しの場合ですが、二字以上の場合は「くの字点」が使われます。

繰り返し記号は、一つの単語のなかでの繰り返しに限って使い、「いままで」「民主主義」のように二つの単語にまたがる場合に「いまゝで」「民主々義」と書くことは望ましくありません。正式の文章には、繰り返し符号をあまり用いない方がよいという意見もありますが、最近では、抵抗なく使われているようです。ただ、「ゝ」や「くの字点」は、横書きでは使いにくいですし、パソコンやワープロで変換するのが簡単ではありませんから、次第に使われにくくなってきています。より詳しい基準は、文化庁編『言葉に関する問答集 総集編』（大蔵省印刷局発行）所収の、「くりかへし符号の使ひ方〔をどり字法〕（案）昭和21.3」を参照してください。

くの字点	二の字点	同の字点	一ツ点
く	々	々	ゝ
知らずく	愈ゝ	正々堂々	こゝろ



ことばフォーラム

終了報告

平成12年5月13日（土）国立国語研究所講堂

昨年11月に引き続き、平成12年度第1回の「ことばフォーラム」を実施しました。今回は、「年齢とことば」をテーマに、「年齢とともに変わることば」「『若者ことば』から『オジサンことば』へ」「教室の中での子どものことば」の三つの講演と、講演に関連した質問に所員がお答えするという二部構成で実施しました。100名を超える参加者からは熱心な質問が繰り返され、初めて参加したが楽しくわかりやすい講義だった、卒業論文を作成する際の参考にしたい、などの感想も聞かれました。





「日本語学習者による日本語作文 と、その母語訳との対訳データベース」

日本語教育センター第三研究室 宇佐美 洋

現在日本には、5万人あまりの留学生が学んでいます。その多くは、「日本語でレポートや論文を書く」という大変な課題を背負っています。日本語という「母語でない言語」で文章を書くということだけでもむずかしいのに、自分の考え出した新しい意見を、他の人に納得してもらえようわかりやすく書かなければならないのです。その苦勞は並大抵のことではありません。

真に実りある国際交流を目指すには、留学生の数を増やすだけでは十分ではありません。日本に来た留学生の苦勞が少しでも減らせるように、日本語でいい論文が書けるように、さまざまな面で支援をする必要があるでしょう。どうやって日本語作文の書き方を指導したらいいか、どうやって作文を直すのが効果的か、というようなことについても、きちんとした調査研究をしておくことが必要です。

こうした調査研究の一環として、国立国語研究所では「日本語学習者による日本語作文と、その母語訳との対訳データベース」というものを作っています。このデータベースには、おもに以下のようなものを載せる予定です。

- 1) 日本語学習者が書いた日本語作文(200~800字程度)
- 2) その作文を、執筆者が自分の母語(またはその人にとっていちばん文章が書きやすい言語)に訳したもの
- 3) 日本語作文を、日本語の先生が赤字で添削したもの

現在のところ1)の日本語作文は、アジア7か国から約800編のものが集まっています。これだけのデータがあれば、外国の人が日本語で作文を書くときどういう種類の間違いをしやすいのか、逆にどういう間違いは起こりにくいのか、というようなことを、さまざまな角度から分析することができます。このような分析を「誤用分析」といいます。

また、母語でない言語を使うとき、ついつい自分の母語の影響が出てしまうことがあります。たとえば日本語の「広い部屋」という言い方をそのまま英語に直訳して"wide room"と言ってしまふような例です(英語では"a large room")。このような影響を「母語干渉」といいます。

まだ未完成ですが、これがデータベースのインデックス(索引)画面上で下線の引かれた文字をクリックすると、必要なファイルがホームページと同じ仕組みです。

この画面は、韓国語を母語とする人のデータを検索するための説明が英語になっていますが、これは、日本語の文字が組み込まれます。言うまでもなく、外国で買ったコンピュータだと普通方々にも広く活用していただきたいのでこのようにしました。

将来的には画像なども組み込み、視覚的にももっときれいで

です。コンピュータ上でまずこのインデックスファイルを開き、自動的に開けるようになっています。つまり、インターネットのホームページと同じ仕組みです。

インデックスです。まわっていないコンピュータでも表示できるように、という配慮に日本語の文字は入っていません。このデータベースは、外国の

かりやすいインデックスにしたいと考えています。

ここは、「執筆者情報」とリンクされています。作文を書いた人が、何年くらい日本語を勉強してきたか、日本で生活したことがあるか、という情報が、テキストファイルとして収録されています。もちろん、氏名や学校名などの個人情報を含まれていません。

ここは、作文の課題をあらわします。「1」は「あなたの国の行事について」、「2」は、「たばこについて」という課題について書いていることをあらわしています。

ここをクリックすると、日本語作文のテキストファイルが開きます。

MTというのはmother tongue, つまり母語のことです。ここからは母語訳のテキストファイルが開きます。

ID No.	Country	Jpn. text file	Jpn. pdf file	Jpn. jpg file	MT text file	MT pdf file	Writer's information	Title of Essay	Revision (by NS)	Revisor's information (NS)	Revision (by NNS)	Revisor's information (NNS)
KR001	R.O.Korea	kr001j.txt	kr001j.pdf	kr001j1.jpg , kr001j2.jpg		*	kr001in.txt	2	*	*	*	*
KR002	R.O.Korea	kr002j.txt	kr002j.pdf	kr002j1.jpg , kr002j2.jpg	kr002m.txt	kr002m.pdf	kr002in.txt	1	*	*	*	*
KR003	R.O.Korea	kr003j.txt	kr003j.pdf	kr003j.jpg	kr003m.txt	kr003m.pdf	kr003in.txt	2	*	*	*	*
KR004	R.O.Korea	kr004j.txt	kr004j.pdf	kr004j.jpg	kr004m.txt	kr004m.pdf	kr004in.txt	2	*	*	*	*
KR005	R.O.Korea	kr005j.txt	kr005j.pdf	kr005j.jpg	kr005m.txt	kr005m.pdf	kr005in.txt	2	*	*	*	*
KR006	R.O.Korea	kr006j.txt	kr006j.pdf	kr006j.jpg	kr006m.txt	kr006m.pdf	kr006in.txt	2	*	*	*	*
KR007	R.O.Korea	kr007j.txt	kr007j.pdf	kr007j.jpg	kr007m.txt	kr007m.pdf	kr007in.txt	2	*	*	*	*
KR008	R.O.Korea	kr008j.txt	kr008j.pdf	kr008j.jpg	kr008m.txt	kr008m.pdf	kr008in.txt	2	*	kr008ns1.jpg , kr008ns2.jpg	jpi02in.txt , kr008nn1.jpg , kr008nn2.jpg	kri01in.txt
KR009	R.O.Korea	kr009j.txt	kr009j.pdf	kr009j.jpg	kr009m.txt	kr009m.pdf	kr009in.txt	2	*	*	*	*
KR010	R.O.Korea	kr010j.txt	kr010j.pdf	kr010j.jpg	kr010m.txt	kr010m.pdf	kr010in.txt	2	*	*	*	*

ここからはpdfという形式のファイルが開きます。内容はテキストファイルと同じなのですが、pdfは「アクトバトリーター4.0」という無料のソフトウェアがあれば、日本語の文字が組み込まれていないコンピュータでも読むことができます。

ここをクリックすると、学生の手書きの原稿をスキャナで取り込んだ画像が開きます。当然のことながら、学生がどのような漢字の間違いをしているかというようなことは、画像ファイルでないと見ることができません。

ここからは、母語のpdfファイルが開きます。ハングル(韓国の文字)がコンピュータに入っていないと、韓国語文書をきれいに表示することができます。

この2箇所からは「添削者情報」が開きます。添削した先生がどこで生まれ育ち、日本語を何年くらい教えてきたか、というようなことが書かれています。

ここからは、日本語を母語としない先生(ここでは韓国人の先生です)が添削した作文の画像が開きます。NNSはNon-Native Speaker(「日本語を母語としない人)のことです。このように、ひとつの作文をできるだけ複数の先生方に、それも、日本語を母語とする先生とそうでない先生の両方をお願いすることになっています。

星印(*)は、その部分のデータがないことをあらわしています。現時点では予算の関係で、すべての作文に添削をお願いすることはできませんでしたが、今後少しずつ、できるだけたくさんの方々に添削をお願いしていく計画です。

ここからは、日本語を母語とする先生が添削した作文を、画像として保存したファイルが開きます。NSはNative Speakerのこと、ここでは「日本語を母語とする人」という意味です。

調査紹介

「白書，広報紙等における 外来語の実態」について

外来語調査担当グループ 山崎 誠 (言語体系研究部第1研究室)

日常生活の様々な場面で外来語（しばしば「カタカナ語」とも呼ばれます）に接する機会が増えています。外来語は、日本語の語彙を増やし、表現の幅を広げるのに役立っていますが、一方で、意味が分かりにくいために内容がよく伝わらないという問題点を持っています。

国立国語研究所では、文化庁の依頼を受け、公的な役割を持つ白書、また、多くの人々が接する広報紙や新聞等を対象にして、外来語がどのように使われているかを調査しました。その結果を『白書，広報紙等における外来語の実態』として報告にまとめました。調査結果のうちいくつかを選んでここに紹介します。

* 白書の外来語

白書における外来語の主な使用分野は、①外国や国際間の事物（例：サミット、アジェンダ21）、②専門用語（例：バイオレメディエーション）、③政策名や施設名等の愛称（例：エンゼルプラン、ファミリーサポートセンター）などです。また、「消費者ニーズ」「エコライフの推進」「フォローアップする」のように、専門用語以外でも日常語的に使われている例がありました。

なお、各資料における使用頻度の高い片仮名表記語については表1を参照してください。

表1 使用頻度の高い片仮名表記語（上位20語）

白 書		広 報 紙		新 聞	
順位	語	順位	語	順位	語
1	サービス (905)	1	センター (10499)	1	メートル (1534)
2	システム (801)	2	サービス (2296)	2	キロ (888)
3	シェア (590)	3	スポーツ (1795)	3	ドル (774)
4	エネルギー (560)	4	コーナー (1310)	4	リーグ (772)
5	リサイクル (370)	5	コース (1244)	5	チーム (704)
6	センター (335)	6	ボランティア (1206)	6	テレビ (687)
7	ネットワーク (333)	7	ページ (1195)	7	グループ (677)
8	ガス (332)	8	バス (1191)	8	プロ (505)
9	コスト (291)	9	テーマ (1126)	9	メダル (494)
10	ベース (279)	10	チーム (1094)	10	システム (410)
11	ダム (212)	11	ホール (933)	11	センター (403)
12	ニーズ (208)	12	クラブ (865)	12	ユーロ (337)
13	メカニズム (197)	13	イベント (784)	13	メーカー (331)
14	モデル (179)	14	リサイクル (751)	14	サッカー (319)
15	データ (160)	15	メートル (685)	15	サービス (314)
16	トン (158)	16	グループ (664)	16	スタート (301)
16	レベル (158)	17	ホーム (643)	17	センチ (299)
18	プロジェクト (154)	18	プール (629)	18	テーマ (295)
19	オゾン (148)	19	パーセント (532)	18	トップ (295)
19	グローバル (148)	20	テレビ (508)	20	ミサイル (286)

※ () 内は使用頻度

* 広報紙の外来語

広報紙でもっとも多く使用されていた外来語は「センター」で、単独で使われたもの以外におよそ50種類近くの「～センター」という複合語が見られました（表2参照）。これに関連して、公共的な施設の名前に見られる外来語として、「ハローワーク」「コミュニティプラザ」「バスターミナル」「クリーンステーション」などがありました。

また、高齢者を対象とした福祉用語や医療関係の用語、地域の行事や催し物の名前にも外来語が見受けられました。福祉用語では、「デイケア」「デイケアサービス」「デイサービス」「デイホーム」など似たような内容で意味の違いが分かりにくいものがありました。

表2 広報紙における「～センター」

運転免許センター	エネルギーセンター	介護支援センター	解放センター
学校給食センター	カルチャーセンター	環境改善センター	勤労者体育センター
勤労婦人センター	クリーンセンター	ケアセンター	研修センター
交流センター	コミュニティセンター	雇用促進センター	サービスセンター
サイクルセンター	市民センター	社会教育センター	生涯学習センター
消費者センター	職業訓練センター	女性センター	ショッピングセンター
森林学習センター	水質管理センター	スケートセンター	スポーツセンター
生活情報センター	青少年センター	清掃センター	赤十字血液センター
総合健診センター	デイサービスセンター	都市緑化センター	トレーニングセンター
ネイチャーセンター	ネットワークセンター	農業指導センター	ハートセンター
福祉センター	文化センター	保健センター	ボランティアセンター
夜間急病センター	リサイクルセンター	リハビリテーションセンター	老人福祉センター

* ローマ字の使用

白書で使われているローマ字表記の語のうち、約3分の2は、「APEC（アジア太平洋経済協力関係会議）」「ODA（政府開発援助）」のような英語の略語でした（表3参照）。略語は、日本語による説明がないと意味が分かりにくいものですが、「EU」「ASEAN」のように日本語の説明なしで使われるものもありました。

* 分かりにくいカタカナ複合語

個々の外来語の意味は分かっても、それらが複合した場合、「ヒューマン・フロンティア・サイエンス・プログラム」のように理解しにくいものがあります。また、国際的な事業や企業、CD・映画の題名などが日本語に訳されずに、原語（英語）をカタカナに変えただけで表記されると、見た目にも長い複合語になります。

一般的に、ことばを使う際には、情報伝達が円滑にできるような配慮が必要です。大勢の人に向かって話したり書いたりするときには、難しそうなことばを言い換えたり、分かりやすく説明を加えたりして、伝えたい内容が正しく受け止められるようにすることが大切になります。外来語の問題もこの立場を基本に考えていくことが重要です。

表3 使用頻度の高いローマ字表記語（上位10語）

白 書		広 報 紙		新 聞	
順位	語	順位	語	順位	語
1	C (311)	1	A (1607)	1	A (468)
2	EU (180)	2	m (1437)	2	J (295)
3	ha (156)	3	FAX (859)	3	W (268)
4	ASEAN (152)	4	No (690)	4	JR (242)
5	WTO (130)	5	Q (487)	5	EU (234)
6	km (113)	6	km (403)	6	B (213)
7	OECD (111)	7	JA (390)	7	AP (203)
8	GDP (97)	8	g (327)	8	ASEAN (167)
9	m (91)	9	cm (303)	9	V (132)
10	ISO (84)	10	PM (266)	10	NTT (125)

※ () 内は使用頻度
頻度の高いローマ字表記語には、略語や単位が多い。



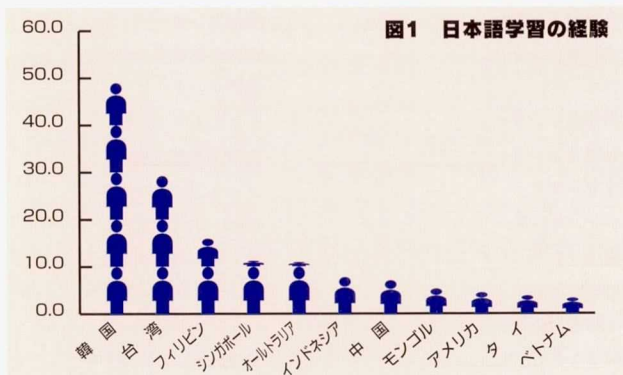
新プログラム
「国際社会における日本語についての総合的研究」

日本語観国際センサスの実施

言語教育研究部長 米田 正人

日本を除く世界27の国と地域について日本語学習に関する項目を概観してみましょう。

「あなたは日本語を習ったことがありますか。あるいは、現在習っていますか。」



日本語について「学習経験がある」と答えた人の割合が多い順に並べてみると図1のようになります。韓国で半数近くの人が日本語学習の経験を持つのを筆頭に、上位5位までが10%を超えるという結果になりました。アジア、オセアニアの国と地域、そしてアメリカが上位を占め、残りの16か国では日本語学習経験者の割合が高々1.7%になっています。特に経験者の割合が多かった韓国と台湾について、年齢別にみても、韓国では60代の80%、台湾では60代後半の50%が高い割合になっています。両国における戦争時の日本語教育の影響が高率の原因であることは無視できないと思います。

表1は日本語学習経験者がどこで、どのように日本語を学んだのかを示しています。学校で習うケースが多いようですが、独学で学んだり個人的に人から教わるケースも多くみられます。どのような学校で学んだのかをみると、韓国、オーストラリア、中国、インドネシアでは中学・高校・大学など義務教育ないしはその延長上で学ぶ率が高く、台湾やシンガポールではそれらの学校に加えて外国語学校（語学学校）で学ぶ率も高くなっています。フィリピンやアメリカでは個人的に教わる人の割合が多く見うけられます。

	学校で	職場で	個人的に	独学で	その他	人数
韓国	81.6	9.2	15.3	20.6	1.0	490
台湾	66.5	9.3	22.8	18.9	1.2	334
フィリピン	20.6	18.1	62.5	33.8	0.6	160
シンガポール	51.7	30.2	19.8	14.7	0.9	116
オーストラリア	69.9	10.6	25.7	8.0	3.5	113
インドネシア	57.7	20.5	19.2	12.8		78
中国	69.9	11.7	21.8	42.7	2.4	206
モンゴル	41.5	20.8	41.5	43.4	5.7	53
アメリカ	35.6	22.2	53.3	24.4	11.1	45
タイ	47.4	13.2	26.3	34.2		38
ベトナム	48.5	18.2	30.3	27.3		33

表1 日本語をどこで、どのように学んだか

「あなたは今後、日本語を習いたいと思いますか。あるいは習い続けたいと思いますか。」

「非常に習いたい」と「まあ習いたい」をあわせた割合の順に並べると、表2のようになります。全体的にみると学習経験の割合に比べて習いたい人の率が大幅に高くなっているのがわかります。特に、ブラジル、トルコ、ナイジェリア、エジプトなどでは、習いたい人の率が30%を越え、学習意欲を持つ人の割合の高さが目に付きます。一方、ヨーロッパの国々では、一番率の高いフランスでも19.3%と、相対的には日本語学習経験と同様に、日本語学習に意欲を持つ人の割合も低くなっています。

フィリピン	58.1	中国	31.9	イギリス	16.9
韓国	49.4	エジプト	30.9	アルゼンチン	16.8
台湾	49.0	シンガポール	29.3	イタリア	15.1
ブラジル	45.6	アメリカ	28.5	スペイン	13.8
トルコ	41.2	インドネシア	27.1	ポルトガル	13.0
ナイジェリア	36.9	ベトナム	26.9	オランダ	10.2
モンゴル	36.1	イスラエル	21.1	ドイツ	9.7
オーストラリア	35.3	インド	20.6	ハンガリー	8.1
タイ	34.6	フランス	19.3	ロシア	6.3

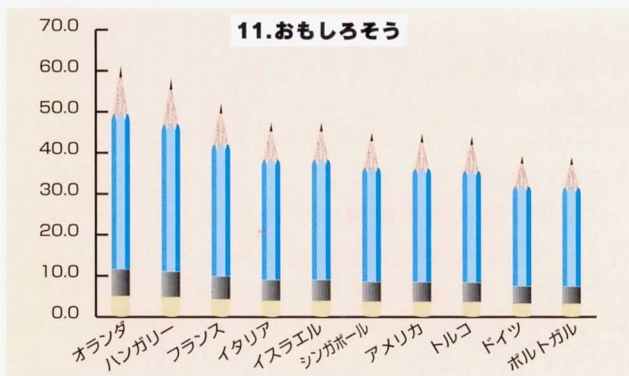
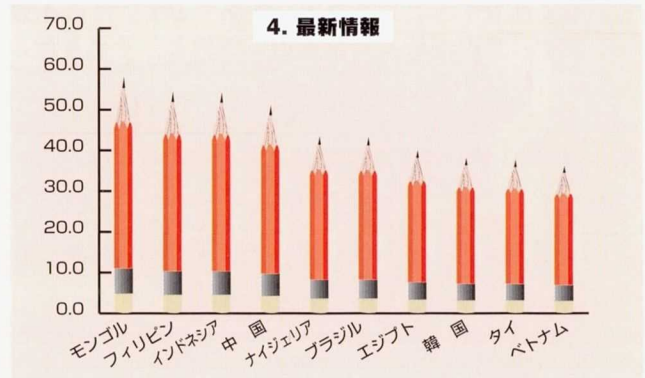
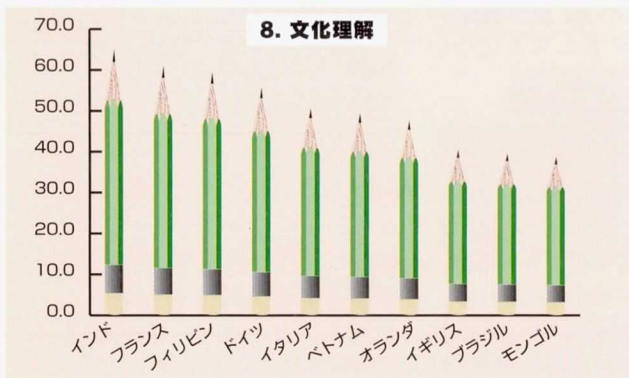
表2 日本語を習いたいと思う人の割合 (%)

次に日本語を習いたいと思う理由を見てみましょう。調査では「非常に習いたい」「まあ習いたい」と回答した人に、右に示す15の選択肢を提示して、複数の回答を認める方式で質問を行いました。

回答の多かった「8.文化理解」「4.最新情報」「11.おもしろそう」「10.日本旅行」の4項目について、回答率上位10の国と地域の割合をグラフにしてみましょう。例えば、「4.最新情報」の場合、アジア諸国をはじめ開発途上国が上位を占め、「11.おもしろそう」の場合は、ヨーロッパをはじめ先進国が顔を揃えているといったように、項目ごとに国と地域の特色があらわれているのがおわかりいただけると思います。

1.	いい職につけるから	20.7
2.	収入が増えるから	11.3
3.	仕事で必要	17.6
4.	最新の情報を身につけるため	33.9
5.	国際間の共通語として	13.9
6.	重要なことばだから	17.2
7.	先祖のことばだから	0.5
8.	日本特有の文化を理解するため	35.7
9.	日本が好きだから	12.4
10.	日本を旅行するときに、旅行をもっと楽しめるように	23.2
11.	おもしろそうだから	29.5
12.	友達・恋人などとのコミュニケーションに必要	9.9
13.	学びやすいから	4.0
14.	すでに学習していたから	6.3
15.	その他（具体的に）	3.4

表3



日本語観国際センサスでは、日本語学習について他にもいくつかの項目が調査されています。誌面の都合ですべては紹介できませんでしたが、それらの結果を総合的に分析し、日本語教育の政策立案に応用することも可能です。日本語観国際センサスは学問的好奇心と政策的興味を融合した、世界でも数少ない興味ある国際比較調査であると思います。

ここに示した日本語観国際センサスは、1997年1月から1998年3月までの間に世界27か国で実施されました。この調査は、文部省科学研究費補助金（創成的基礎研究費）「国際社会における日本語についての総合的研究」（代表 水谷修）の助成を受けて行われたものです。なお、調査の概要については「国語研の窓」2号、3号を参照してください。



「ことばフォーラム」のご案内

「フォーラム」というのは、「広場」という意味の外来語です。国立国語研究所では、市民の皆さんと一緒にことばについて考えたり話し合ったりできる「広場」のような機会を、「ことばフォーラム」と名付けて1年間に3回程度催すことにしています。平成12年度の第1回は、5月13日(土)に「年齢とことば」をテーマに実施しました。第2回は主に中学生、高校生を対象に、以下のように開きます。前半で研究所員からのお話をお聞きいただき、後半ではご参加いただいた皆さんとお話しするという内容です。中学生、高校生以外の方もお気軽にご参加ください。

- ◆日時 平成12年8月8日(火) 午後2時から午後4時まで
- ◆場所 国立国語研究所 講堂 (5階建て建物の5階にあります)
- ◆フォーラム

入場無料

- (1)「放課後の漢字」 笹原 宏之(言語体系研究部主任研究官)
横山 詔一(情報資料研究部主任研究官)

私たちは、学校でたくさんの漢字を勉強します。そのほか、本や漫画を読んだり、街中で看板を見たり、携帯電話でメールのやりとりをしたときなど、いろいろな漢字を目にしています。それらをあらためて観察してみましょう。

- (2)「話しことばの秘密」 前川 喜久雄(言語行動研究部第二研究室長)

話しことば(音声)と書きことば(文字)の本質的な相違点は何でしょうか。両者のあいだには普通に考えられているよりもずっと大きな違いがあります。その相違点について音声科学の立場から検討した結果についてお話しします。音声伝える情報の多様性と、それを生み出すメカニズムについて、コンピュータによる実演を交えながら、わかりやすく説明します。

◆11月の「ことばフォーラム」のご案内

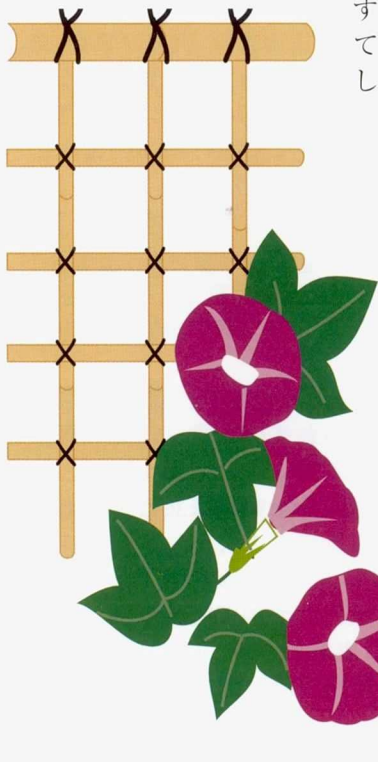
平成12年11月11日(土) 一般社会人対象

最近、日本語を母語とする人とそうでない人とが会って話し合うことがずいぶん多くなりました。違う文化や言語をもった人々同士が生活の中で交流しあうことは、もはやごく日常的な風景です。日本語を学ぶ人にとって、学校だけが学びの場であるわけではありません。むしろ、日常生活の中で、日本語を話す人々と直接付き合うことから、より多くのことを学んでいるのだといえます。そして、受け入れ側の日本人にとっても、日本語を学んでいる人との付き合いは、自分の言語や文化について改めて考え直してみる絶好の機会だといえます。

11月の「ことばフォーラム」のテーマは「日本語教育」です。日本語を母語とする人としらない人とが良好なコミュニケーションをとっていくためのやり方について、言語・文化などさまざまな視点から考えていきます。日本語を母語とする人、しない人、双方の参加を歓迎します。

● 所内見学 ●

平成12年5月25日(木)、福井県鯖江市の東陽中学校の生徒が、同中学校の修学旅行テーマ別研修で国立国語研究所を訪れました。見学の目的は、「東京のことばの特色、ルーツについて知りたい」と「東京のことばと福井弁の違いを知りたい」というものでした。見学後のアンケートでは、「東京にも地域によって異なることばがあることがわかった」「福井のことばは全国でみて、西の方のことばと似ている」など新発見があったようです。また、「このような研究をしてみたい」といった感想も聞かれました。



問い合わせ先：国立国語研究所
庶務部庶務課庶務係
電話 03-5993-7603

©2000 国立国語研究所